

顧問挨拶

① メッセージ

老骨に鞭打って皆さんと闘う

尾形 憲（法政大学名誉教授、元イラク違憲訴訟の会・東京共同代表）

「新党」準備会参加の皆様へ

本日は、新党準備会公然化スタート総会のため全国からお集まり下さり、誠に有難うございます。

私も当然のことながら、即刻馳せ参じなければならないところ、1月半ば不注意のため足の骨を折り、入院いたしまして、歩行が意のままにならない身で参加できません。かえすがえすも、残念です。

「未来」の新年号に書いたことですが、ご存知のように、アメリカの裏庭と言われた中南米に左翼旋風が吹きまくっています。そして、サブプライムローン問題に端を発するとめどもない金融不安、円高、ドル安・・・。ベネズエラ大統領チャベスは「資本主義のシンボルはユダであり、社会主義のシンボルはキリストである」と言いました。その資本主義の脆弱性が今、誰の目にも明らかになっています。そうしたときに、その資本主義を打ち倒すべき使命をもつ私たちの準備会が発足します。

国内では私たちが全力を傾注して闘ったイラク派兵違憲訴訟が名古屋高裁で画期的な違憲判決をかちとりました。闘うことによってそれはかちとられたのです。「平和は歩いて来てくれない」。

一日も早く退院して皆さんの驥尾（きび）に付し、老骨に鞭打って闘いたいと念じております。準備会総会の成功をお祈りし、新たなスタートを心からお祈り申し上げます。

闘いはここから、闘いは今から 2008. 5. 10 尾形 憲

② 革命21の発展を

矢山有作（元衆議院議員 現イラク違憲訴訟岡山・代表）

顧問を仰せつかりました矢山有作と言います。私は、国会議員を止め、岡山に帰ってまいりましてから、私は実は労働組合出身ではありませんが、地域の労働運動をやろうと。

そのときに最初に、関生支部から武委員長に来ていただいて、労働運動についての話をさせていただきました。そのときに、関生の労働運動というものに非常に強い感銘を受けまして、それから、岡山で何とかそういうものがやれないかなと考えました。

見ていると、岡山の場合、一番目に付くのはトラック労働者の非常に厳しい状況なんです。そういうことから考えて、私はJRの労働者のみなさんが比較的近い立場におられ

と思います。ご存知のように、JRはどんどん下請になってしまって、将来運転手以外は全部外に出されるんじゃないでしょうか。JR東日本はそういう方針をはっきり出していますからね。

JRから外へ出されて働いている労働者の労働条件というのは非常に厳しいと思っておるんです。そういうところから、やはり、JRを中心としたユニオン組織をつかって、それを交通運輸関係の労働者まで広げられるのではないかと。そういう風に考えまして、色々JRのみなさんと話をしておりましたら、ある方が「それをやってみる」ということで、段々そういう風になってきているということを楽しんでいます。

そういう状況をご報告しながら、今日のスタート総会の盛会と、この革命21の発展のためにみなさんと一緒にがんばることを誓って、乾杯をしたいと思います。

(乾杯のことばより)

③ いいだもも (マルクス主義理論研究家、作家)

運命の前髪をつかまえて、テンポを速めるべきだ

私は、中岡同志、生田両同志の出した提案には大賛成ですから、今出されている問題点をさらに深めたいということから、私見を述べたいと思います。

第1には、結集テンポをどうするのかということ。2004年に中岡同志を先頭に関生共産主義者同盟が宣言を出して、「党をつくろうじゃないか」と呼びかけてから4年。このテンポをもっと速めなければだめだと、私は思うんですね。

と言うのは、昨年4月以降のサブプライムローン問題、これは世界信用恐慌の始まりです。大恐慌というのは、アメリカ大恐慌以来の1世紀に1回しかない大恐慌で、千載一遇のチャンス。これを逃さないために、運命の前髪をつかまえる、そういう時期だと思いません。逃したらどうなるのか。私の想定では、恐らくは、アドルフ・ヒトラーとヨセフ・スターリンという二人の大悪党の名で捉えられている全体主義的な支配・抑圧体制のさらに劣悪な再現がわれわれを襲うだろう。そういう懸念がある。世界信用恐慌の大勃発が異常なテンポとスケールで進行しており、絶対にわれわれはたじろいではない。この認識が焦点中の焦点だと思うので、その見合いでテンポを考えた方がいいだろうと思います。

第2に、どういうテーマで新党をつくるのか。テーマというのは何でもあり得ますけれど、一つは、やはり私は、農業基礎・工業主導の地域循環型社会の再生ということが、この世を救う要であると思うんです。だから、大野さんと話したが、われわれの農業テーマを打ち出さなければだめだと思っています。言うまでもなく、スターリン主義の徹底的な批判をさらに深め続けるということです。つまり、資本主義の打倒ということは、紆余曲折の中で、中断したんだけど、中断させた力というのは何かと言えば、それは言うまでもなくスターリン主義ですよ。世界農業問題というのは、資本主義では解決できない。しかし、スターリン主義の上から強制的なコルホーズ集団農業ということで、希望の星であったロシアの農業というのは、ツァーリズムよりももっとひどいことになった。だから、

それを乗り越えるのは、大野和興さんが言うように、われわれが農業テーゼをつくって、農業基礎・工業主導の地域循環型社会を非常にリアルな形で、目にもの見せてつくり上げる以外に、私はないと思います。こうした大テーマのところでは芯がなければ、われわれは革命をなすことはできない。

3番に、当面している内外情勢です。アメリカの大統領選は11月で、黒人大統領が出現する。そのところで、日本では、戦後60年来の自民党独裁内閣が終って、間違いなく、小沢一郎内閣。これはつまり、民主党の小沢が立って、社共の護憲派政党も受け入れるという形で、古い言葉で言えば、大統一戦線ですね。これは非常に大きなことです。

それで、当面の内外政策は、例えば高齢者医療制度というのがある。老人パワーは、非常に今、怒っているわけです。そういう状況だと思うんです。

しかも、そういう生活と権利を守るということは、現在、われわれの政府をどうやってつくるのかということに煮詰まってきた。だから、差し当たりは小沢首班でもいいから、大統一戦線内閣でね。私が言いたいのは、政府スローガンに、政治的意味をそれぞれの諸要求闘争が帯びているということです。だから、そのところを踏まえる。

最後に、新党の党名をどうするか。私の提案は、ずばり、「コム・革命21」です。

(総会における発言から)